

目指せ! 日常的な端末活用

～主体的・対話的深い学び×ICT～



1人1台端末の本格的な活用の実施

- 平成26年度より 県立学校

- 令和3年度より 市町立学校

未来に向けて新しい価値を
生み出していく子ども

超スマート社会を生き抜く知識、技能、課題解決力を身に付けた「子ども」

良質な学びの創造 ~学習活動の一層の充実~

- ・授業での活用（協働学習、ドリル学習、デジタルノート等）
- ・授業外での活用（キャリア教育、課外活動等）
- ・オンラインでの活用（授業、行事、危機事象発生時対応、不登校対策等）

発達段階に応じた「情報活用能力」の育成

授業づくり

~「協働的な学び」と「個別最適な学び」の実現



【ICT活用の利点】

- 資質・能力の確実な育成
- 多様な考えをリアルタイムで共有
- 児童・生徒1人1人の学習状況に応じた個別学習

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

教職員のICT活用指導力向上

~1人1台端末を活用した授業改善~



【ICTの特性】

- 多様で大量な情報を容易にカスタマイズできる
- 時間的・空間的制約を超えることができる
- 双方向性を有する

これまでの教育実践とICTのベストミックス

児童生徒一人一人の個性や能力 及び 危機事象に対応した学習展開が必要

社会情勢 の変化

- IoT、AI等をはじめとする技術革新により社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 多様化する子供たちに対応するための個別最適な学びの実現への期待
- 感染症の広範囲に及ぶ流行や災害など危機事象対応への必要性の高まり



端末活用のステップアップ構想

1. 授業づくり

3 Step

～「協働的な学び」と「個別最適な学び」の実現～

2. 教職員のICT活用指導力の向上

3 Step

～1人1台端末を活用した授業改善～

3. 良質な学びの創造

5 Step

～学習活動の一層の充実～



授業づくり ~「協働的な学び」と「個別最適な学び」の実現

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

「授業づくりのステップ1・2・3」をベースとして

いつでも！どこでも！だれでも使える！
授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1
 平成29年2月 佐賀県教育委員会

このリーフレットは、子どもたちにとってわかりやすい「授業づくり」に向け、佐賀県の先生方の授業がよりステップアップできるよう活用してもらうことを目的に作成しました。

それぞれの先生方が、子どもたち一人ひとりの「わかりたい」、「できるようにになりたい」という思いや願いを大切にしながら、日々の授業を振り返るとともに、授業をさらにステップアップさせることで、子どもたちの「学び力」をより一層向上させることができます。

全ての小中学校の先生方の全ての授業において、子どもたちにとってわかりやすい授業、力の付く授業を目指していきましょう。

使えるポイント その1

- いつでも使えます！
授業の前に、教材研究に取り組み時に、指導案をつくる時に、いつでも使えます。
- どこでも使えます！
教室で、職員室で、校内研修で、どこでも使えます。
- だれでも使えます！
経験豊富な先生も、若手の先生も、だれでも使えます。

使えるポイント その2

日々の授業づくりにおける大切な事柄の中から、「めあて」、「まとめ」、「書く活動」、「話し合う活動」、「振り返り」の5つに焦点をあて、それぞれについて3つのステップで示しています。今日の授業はこのステップなのか、チェックしてみましょう。

- ステップ1 佐賀県の多くの先生方が、すでに実践していると考えられるステップです。
- ステップ2 佐賀県のスタンダードとして、全ての先生方に実践してほしいと考えるステップです。
- ステップ3 ステップ2を実践している先生方に、次に目指してほしいと考えるステップです。

授業づくりのステップ:「めあて」の提示について

授業の中で「めあて」を示す目的は、この授業で何ができるようになるか、何をどのように考えればよいのかという、学習の目的や方向性を示し、1時間の見通しを子どもにもたせるためです。そのためには、教師がその授業で子どもに付けさせたい力を明確にする必要があります。

- ステップ1 授業の中で「めあて」を板書きし、子どもに示していますか？
- ステップ2 「めあて」は、子どもにとって理解できる内容になっていますか？
- ステップ3 「めあて」は、1時間の授業で何ができるようになるか、何をどのように考えればよいのかなど、子どもが具体的にイメージできるものになっていますか？

※例えば…
 長方形の面積は求めることができるけど、□のような形の図形は、どうやって面積を求めればいいのかなあ。
 じゃあ、今日の学習のめあては、□の面積の求め方を考えてみましょうでいいですか？

授業づくりのステップ:学習内容の「まとめ」について

授業の後半に学習内容の「まとめ」を行う目的は、「めあて」に沿って学習したことを客観的に見つめ直し、短い言葉でまとめることで、「何がわかったのか」「結果からどんなことが言えるのか」「この先に生かせることはどんなことか」など、子どもが、学んだことを具体的な力として自覚できるようにするためです。

- ステップ1 学習内容の「まとめ」を板書きしていますか？
- ステップ2 「まとめ」は、「めあて」に対応したのになっていますか？
- ステップ3 子どもの発言を取り上げながら「まとめ」を行うことやキーワード・文の書き出しなどを示して、子どもが「まとめ」を行うことができるようにしていますか？

※例えば…
 なるほど、じゃあ、今日の学習のまとめは、「□の面積は、長方形にすれば求めることができる」でいいですか。
 2つに分けたら、足りないところにつけかわえたりすれば面積を求められました。
 長方形にして考えたらいいと思います。

授業づくりのステップ:「書く活動」の設定について

授業の中で「書く活動」を取り入れる目的は、自分の考えを整理するため、考えたことについて話し合う準備のため、自分の考えを表現するためなど様々です。いずれの場合も、活動の目的をはっきりさせた上で、必要に応じて取り入れることが大切です。

- ステップ1 必要に応じて、子どもが一人で考えて「書く活動」を取り入れていますか？
- ステップ2 必要な条件や具体的な書き方などを示した上で、「書く活動」に取り組むことができるようになっていますか？
- ステップ3 自分が書いたものが「めあて」に沿った内容になっているかなどを、子どもが見直せるような手立てをとっていますか？

□授業後は 子どもが書いたものにコメントを記すなどして、先生による評価を子どもに返していますか？

授業づくりのステップ:「話し合う活動」の設定について

授業の中で「話し合う活動」を取り入れる目的は、お互いの考えを出し合い、認め合いながらそれらの共通点や相違点などを比較・検討し合うことなどを通して、考えを整理したり考えの幅を広げたりするためです。

- 少人数で「話し合う活動」●
- ステップ1 必要に応じて、少人数で「話し合う活動」を取り入れていますか？
- ステップ2 話し合いの目的や進め方、時間などを示していますか？
- ステップ3 話し合い内容を魅力的なものにし、話し合う必然性をもたせるなど、子どもが意欲的に「話し合う活動」を進めることができるようになっていますか？

●学級全体で「話し合う活動」●

- ステップ1 子どもが考えを発表し、その内容を学級全体で共有していますか？
- ステップ2 子どもと子どもの考えをつなぎ、子ども同士の交流を通して「話し合う活動」を進めていますか？
- ステップ3 子どもが出した考えを、共通性や関連性などの観点で整理し、みんなに示していますか？

授業づくりのステップ:授業の「振り返り」について

授業の最後に「振り返り」を行う目的は、子ども自身が、学習の達成感を味わい、学んだ内容を再確認するなど、次時につながる学習意欲と見通しをもつようにするためです。教師は、子どもの振り返りを、個別の指導に役立て、次時以降の授業づくりに生かすことが大切です。

- ステップ1 授業の最後に、子どもが「振り返り」を行うようになっていますか？
- ステップ2 「振り返り」を行う前に、学習内容の理解や学習活動への取り組み方など、何について振り返ればよいかを、子どもに示していますか？
- ステップ3 「めあて」に沿った振り返りの視点や判断する基準などを明確に示したうえで、子どもが「振り返り」を行うことができるようになっていますか？

※例えば…
 今日の学習のめあては、「□の面積の求め方を考えて説明しよう」でした。どのような考え方をしたのか、わかったことやできなかったことは何なのか、などについて振り返っていきましょう。

□授業後は 子どもの「振り返り」に目を通し、成長が見られた子どもを褒めたり気になる子どもがいたら、すぐに対応したりしていますか？

授業づくりの重要なポイント

授業づくりにおいて重要なポイントはたくさんありますが、以下のようなことは、特に大切にしたい事柄です。日々の授業はどのようなのか、チェックしてみましょう。

- 話し方や聞き方のルールなど、学習規律の定着を図り、落ち着いて学習に取り組める「環境づくり」に配慮していますか？
- 学習活動を適切に時間配分するなど、1時間の中で、「振り返り」まで効果的に指導できるような「タイムマネジメント」に留意していますか？
- 子どもができる部分は任せるなど、教師が出すぎないよう留意していますか？
- 1時間の学習内容や子どもたちの考えの共通点、相違点、関連などが一目でわかるように、「意図的・計画的な板書き」を心がけていますか？
- 授業の中で、何を、どのような順番で行うのか、1時間の学習活動の見通しが具体的にわかるよう、「学習の流れ」を黒板に示すなど配慮していますか？
- 授業の予習や復習を宿題にするなど、「授業と家庭学習のつながり」を意識した授業づくりを行っていますか？

授業づくりにおける大切な事柄の中から、「めあて」「まとめ」「書く活動」「話し合う活動」「振り返り」の5つに焦点をあて、それぞれについて3つのステップを示している。

授業づくり

～「協働的な学び」と「個別最適な学び」の実現

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

授業づくりのステップ:「書く活動」の設定について

授業の中で「書く活動」を取り入れる目的は、自分の考えを整理するため、考えたことについて話し合う準備のため、自分の考えを表現するためなど様々です。
いずれの場合も、活動の目的をはっきりさせた上で、必要に応じて取り入れることが大切です。

■ステップ1 必要に応じて、子どもが一人で考えて「書く活動」を取り入れていますか？

■ステップ2 必要な条件や具体的な書き方などを示した上で、「書く活動」に取り組むことができるようにしていますか？

■ステップ3 自分が書いたものが「めあて」に沿った内容になっているかなどを、子どもが見直せるような手立てをとっていますか？

□授業後は 子どもが書いたものにコメントを記すなどして、先生による評価を子どもに返していますか？

1人1台端末の活用のポイント

- ・画像の一斉送信、端末からの随時提出
- ・書き込み、色塗り等の修正、変更、保存
- ・保存後の振り返りへの活用

<活用例①>



【算数】スライド機能を活用し、図、式、言葉を使用し自分の考えを記述する。

<活用例②>



【理科】心臓の画像の一斉送信後、動脈を通る血液と静脈を通る血液を、赤と青に色分けをしたり、自分の考えを書き込んだりする。

1人1台端末の活用のポイント

授業づくり ～「協働的な学び」と「個別最適な学び」の実現

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

授業づくりのステップ:「話し合う活動」の設定について

授業の中で「話し合う活動」を取り入れる目的は、お互いの考えを出し合い、認め合いながらそれらの共通点や相違点などを比較・検討し合うことなどを通して、考えを整理したり考えの幅を広げたりするためです。

●少人数で「話し合う活動」●

■ステップ1 必要に応じて、少人数で「話し合う活動」を取り入れていますか？

■ステップ2 話し合いの目的や進め方、時間などを示していますか？

■ステップ3 話し合う内容を魅力的なものにし、話し合う必然性をもたせるなど、子どもが意欲的に「話し合う活動」を進めることができるようにしていますか？

●学級全体で「話し合う活動」●

■ステップ1 子どもが考えを発表し、その内容を学級全体で共有していますか？

■ステップ2 子どもと子どもの考えをつなぎ、子ども同士の交流を通して「話し合う活動」を進めていますか？

■ステップ3 子どもが出した考えを、共通性や関連性などの観点で整理し、みんなに示していますか？



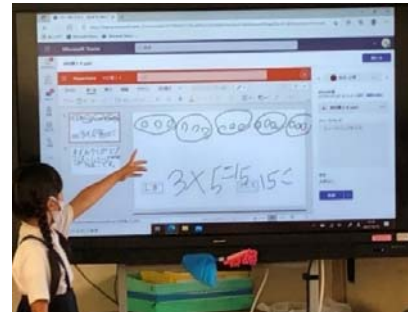
<活用例①>



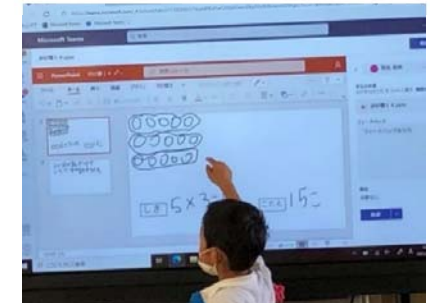
●少人数で「話し合う活動」

【理科】実験結果を端末で示しながら、記号や印を使って互いに説明し、考えを深める。

<活用例②>



●学級全体で「話し合う活動」



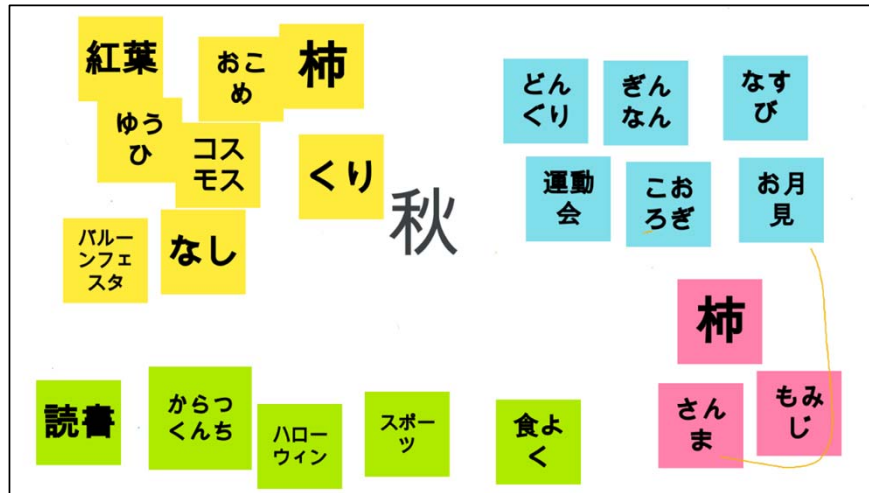
【算数】端末に記述した異なる考え方を確認しながら、共通点や相違点に着目し、考えを深める。

授業づくり ～「協働的な学び」と「個別最適な学び」の実現

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

<活用例③>

「書く活動」



【国語】「秋を集めよう」の題材で、ホワイトボード機能を使って、秋に関するものについて記述する。

考えの記述

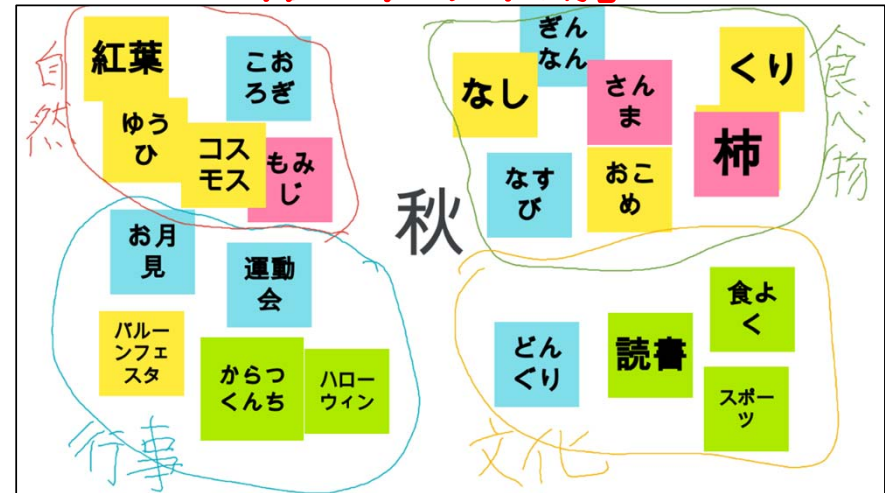


分類・整理

1人1台端末の活用のポイント

- 全体の考え、意見の把握
- 書き込み、色付け等の修正、変更、保存
- 多様な考えの共有、分類、整理

「話し合う活動」



グループでどのような視点で分類するのかを考えながら、分類、整理する。分類した理由を説明したり、分類したものがそれでよいのか確かめたりして考えを深める。

授業づくり ~「協働的な学び」と「個別最適な学び」の実現

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

授業づくりのステップ:授業の「振り返り」について

授業の最後に「振り返り」を行う目的は、子ども自身が、学習の達成感を味わい、学んだ内容を再確認するなど、次時につながる学習意欲と見通しをもつようにするためです。
教師は、子どもの振り返りを、個別の指導に役立て、次時以降の授業づくりに生かすことが大切です。


■ステップ1 授業の最後に、子どもが「振り返り」を行うようにしていますか？

■ステップ2 「振り返り」を行う前に、学習内容の理解や学習活動への取り組み方など、何について振り返ればよいかを、子どもに示していますか？

■ステップ3 「めあて」に沿った振り返りの視点や判断する基準などを明確に示したうえで、子どもが「振り返り」を行うことができるようにしていますか？



※例えば…

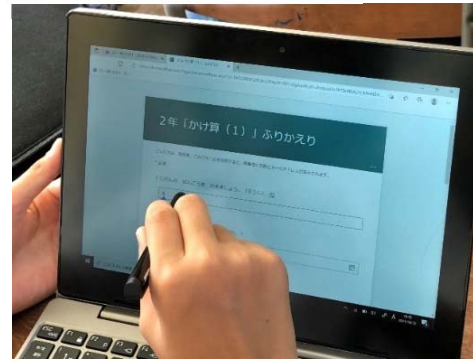
今日の学習のめあては、「の面積の求め方を考えて説明しよう」でした。どのような考え方をしたのか、わかったことやできるようになったことは何なのか、などについて振り返ってみましょう。

□授業後は 子どもの「振り返り」に目を通し、成長が見られた子どもをほめたり気になる子どもがいたら、すぐに対応したりしていますか？

1人1台端末の活用のポイント

- ・短時間での実施、集約、グラフ化
- ・多様な考えの共有
- ・気持ち、考えの変容の確認

<活用例①>



【全教科】アンケート機能を活用し、振り返りを行う。

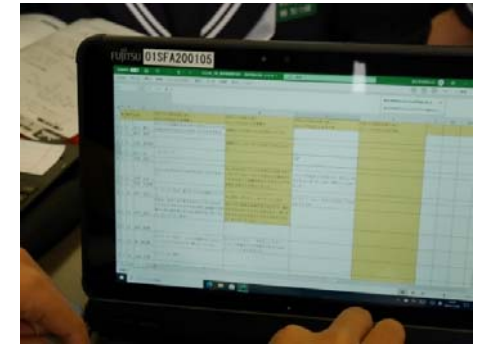
【選択式】

- ・学習への意欲
- ・学習の理解度

【記述式】

- ・授業でできるようになったこと・できなかったこと
- ・授業でわかったこと・新たな気づき・新たな課題

<活用例②>

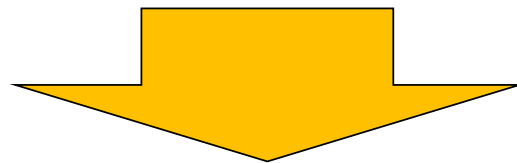


【全教科】表計算の共有機能を活用し、振り返りを行う。

アナログ → デジタル

一人一台端末を活用した授業づくり

- ・時短・効率化
- ・可視化
- ・繰り返し学習



良質な学びの創造へ

教職員のICT活用指導力向上 ~1人1台端末を有効に活用した授業改善~

これまでの教育実践とICTのベストミックス

1. 1人1台端末で変わる学び ← 教師も変わる！

工夫次第で、学びの可能性は無限大に

3step

<活用例>ホワイトボード機能を活用し
多様な意見を、分類、整理、共有する。

<活用例>アンケート機能を活用して、
課題についての予想をしたり、授業の振
り返りをする。

<活用例>1人1人が文章作成機能を活用し、
授業で学んだこと、分かったこと、疑問点な
どを記入する。

Step 3

教科の学びをつなぐ。
社会課題等の解決や
一人一人の夢の実現に活かす。

Step 2

教科の学びを深める。
教科の学びの本質に迫る。

Step 1

“すぐにでも” “どの教科でも”
“誰でも” 活かせる1人1台端末

Step 1

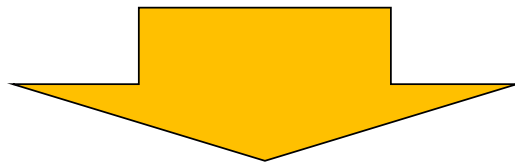
Step 2

Step 3

1人1台端末を活用する場を授業に取り入れる

例

- ・文書作成ソフトを活用した取組
- ・インターネットを活用した調べ学習
- ・プレゼンテーションソフトを活用した取組
- ・ホワイトボード機能を活用した協働学習



教職員のICT活用指導力の向上

良質な学びの創造

～学習活動の一層の充実～

発達段階に応じた「情報活用能力」の育成

※ひとつの例として示すものであり、発達段階に関わらず、個や集団の実態に応じて参考にさせていただくことも想定しています。

1. 目指す児童・生徒像

5 Step

1人1台端末等の基本的な操作がわかり、大切に扱おうとする。

Step 1
小(低)

1人1台端末等に慣れ親しみ、情報収集や記録など、学習や生活に役立てようとする。

Step 2
小(中)

1人1台端末等を積極的に利用し、情報を整理しながら課題解決に活かそうとする。

Step 3
小(高)

1人1台端末等を目的に応じて活用し、情報を取捨・選択しながら意図に沿うようまとめることができる。

Step 4
中

1人1台端末等の活用を様々な場面に広げようとし、効果的で説得力のある表現ができる。

Step 5
高

発達段階に応じた「情報活用能力」の育成

※ひとつの例として示すものであり、発達段階に関わらず、個や集団の実態に応じて参考にさせていただくことも想定しています。

2. 育みたい資質・能力 ※情報活用能力の体系表例より

分類		Step 1 小(低)	Step 2 小(中)	Step 3 小(高)	Step 4 中	Step 5 高
A. 知識及び技能	情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	・コンピュータの起動や終了、写真撮影などの基本操作	・電子ファイルの検索	・電子ファイルのフォルダ管理	・電子ファイルの圧縮、暗号化、バックアップ等	・電子ファイルのクラウド上での活用や権限設定等
	問題解決・探求における情報活用の方法の理解	・身近なところから様々な情報を収集する方法	・調査や資料等による基本的な情報の収集の方法	・調査や実験・観察等による情報の収集と検証の方法	・情報通信ネットワークなどからの効果的な情報の検索と検証の方法	・情報通信ネットワークから得られた情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方
	情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	・人の作った物を大切にすることや他者に伝えてはいけない情報があること	・自分の情報や他人の情報の大切さ	・情報に関する自分や他者の権利	・情報に関する個人の権利とその重要性	・情報に関する個人の権利とその重要性
B. 思考力、判断力、表現力等	問題解決・探求における情報を活用する力	・身近なところから課題に関する様々な情報を収集し、絵や図、表やグラフなどを用いて、情報を整理する	・調査や資料等から情報を収集し、情報同士のつながりを見つけたり、観点を決めた簡易な表やグラフ等や習得した「考えるための技法」を用いて情報を整理する	・目的に応じた情報メディアを選択し、調査や実験等を組み合わせながら情報収集し、目的に応じた表やグラフ、「考えるための技法」を適切に選択・活用し、情報を整理する	・調査を設計し、情報メディアの特性を踏まえて、効果的に情報検索・検証し、目的や状況に応じて統計的に整理したり、「考えるための技法」を組み合わせる活用したりして整理する	・分析の目的等を踏まえて調査を設計し、効果的に情報検索・検証し、目的や状況に応じて統計的に整理したり、「考えるための技法」を自在に活用したりして整理する
C. 学びに向かう力・人間性等	問題解決・探求における情報活用への態度	・事象と関係する情報を見つけようとする	・情報同士のつながりを見つけようとする	・情報を構造的に理解しようとする	・事象を情報とその結びつきの視点から捉えようとする	・事象を情報とその結びつきの視点から捉えようとする
	情報モラル・情報セキュリティなどについての態度	・人の作った物を大切に、他者に伝えてはいけない情報を守ろうとする	・自分の情報や他人の情報の大切さを踏まえ、尊重しようとする	・情報に関する自分や他者の権利があることを踏まえ、尊重しようとする	・情報に関する個人の権利とその重要性を尊重しようとする	・情報に関する個人の権利とその重要性を尊重しようとする

良質な学びの創造 ～学習活動の一層の充実～

発達段階に応じた「情報活用能力」の育成

※ひとつの例として示すものであり、発達段階に関わらず、個や集団の実態に応じて参考にしていただくことも想定しています。

3. 情報活用能力を育む！人！台端末活用場面

授業での活用	授業・授業外での活用		授業外での活用
<p>学習の定着状況の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項の確認 確認テスト 小テスト 自作教材の活用 	<p>調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> 検索機能の活用 図鑑、辞書等必要な情報の閲覧 目的に応じた調べ学習 調査の記録 	<p>協働制作</p> <ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションソフトの活用 ホワイトボード機能の活用 スライド機能の活用 	<p>進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業情報の収集 就職情報の閲覧 高等学校情報の収集 面接練習
<p>「協働的な学び」</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子黒板で投影、共有 考え方の比較、検討 ホワイトボード機能の活用 	<p>記録、整理、分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 動画の活用 写真の活用 スライド機能の活用 録音機能の活用 音声認識ソフトの活用 プレゼンテーションソフトの活用 データ処理 表やグラフでの分析 	<p>まとめ・発表</p> <ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションソフトの活用 ホワイトボード機能の活用 スライド機能の活用 動画機能の活用 写真機能の活用 	<p>朝礼前、休み時間</p> <ul style="list-style-type: none"> タイピングソフトの活用 学級日誌での活用 班日誌での活用 係活動での活用
<p>振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート機能の活用 文書作成機能の活用 考えの共有 		<p>デジタルノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ノートとしての活用 ファイリング機能の活用 検索機能の活用 	<p>個別最適な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ドリル教材の活用 復習動画・教材の活用 自作教材の活用
<p>回答機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒の回答や考えを確認 		<p>シュミレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 模擬による試行錯誤 	<p>課外活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事 児童会活動、生徒会活動 クラブ活動 部活動
<p>学校生活のオンライン化 ・危機事象発生時の活用 ・オンライン授業、集会、教育相談、面接 ・クラウド活用の協働学習 ・学校行事での活用</p>			

最後に

☆1人1台端末の活用よさを生かした指導

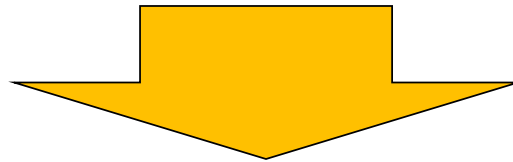
時短・効率化ができる

○教師

- ・すべての児童・生徒の意見や考えを瞬時に把握することができる。
- ・課題の一齐送信ができる など

○児童・生徒

- ・移動せずに、他者の意見や考えに触れ、考えを広げたり深めたりすることができる。
- ・課題の随時提出ができる。
- ・繰り返し学習ができる。 など



「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現